

# アンケート結果の概要

## 1 本市の小中一貫教育のねらい（7項目）に係る内容について

### 1-1 「9年間を見通した系統的・継続的な学習指導」についての意識

- ①児童生徒は「授業はこれまで習ったことやこれから習うことにもふれて進められていると思う」に対して、6割以上が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している。
- ②保護者は「授業でこれまで習った事や今後習う事にもふれるなど、学習内容のつながりを意識してほしいと思う」に対して9割以上が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③9割以上の小・中学校が小中一貫教育の試行により9年間を見通した系統的・継続的な学習指導を意識するようになったとしている。

### 1-2 「9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導」についての意識

- ①小学生は「担任の先生だけでなく、他の学級や学年の先生など多くの先生と話したりすることが多くなっていると思う」に対して6割以上が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している。しかし、中学校2年生では肯定的な回答の割合は低く、5割を下回っている。
- ②保護者は「担任や学年の先生に限らず、他学年の先生など多くの先生と我が子の関わりを持つようになってほしいと思う」に対して9割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③9割以上の小・中学校が小中一貫教育の試行により9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導を意識するようになったとしている。

### 1-3 「9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動」についての意識

- ①「地域を知ったり、地域の人たちといっしょに活動したりする学習が多くなっていると思う」に対して「思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は小学生では4～5割程度であるが、中学生では2割程度と大幅に低くなっている。
- ②保護者は「地域の方を先生として招いたり校区の良さを知る活動など、地域と結びついた教育活動を計画的に行ってほしいと思う」に対して7割以上が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③8割以上の小・中学校が小中一貫教育の試行により9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動を行うようになったとしている。

### 1-4 「児童生徒間の多様な交流活動や地域社会との交流」についての意識

- ①小学生では「他の学年や近くの小学校、中学校の人といっしょに活動するようになってきていると思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答する割合が4割程度と低く、中学生では2割程度とさらに低くなっている。
- ②「異学年交流や小・中学校との交流を多くしてほしいと思う」に対して小学校の保護者は7割程度が、中学校の保護者は6割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③9割以上の小・中学校が小中一貫教育の試行により、児童生徒間の交流活動や地域社会との交流を行うようになったとしている。

### 1-5 「児童生徒一人一人への理解を深めること」についての意識

- ①小学生は「自分のことを先生がしっかりわかってくれるようになったと思う」に対して6割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答しているが、中学生では低くなり、特に中学校2年生では4割程度まで低くなっている。
- ②保護者が「先生は、我が子のことを多方面から深く理解してくれるようになったと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している割合は4割前後と総じて低い。
- ③小・中学校は「小中一貫教育の試行により、児童生徒への理解が深まってきた」に対し、1割が「そう思う」、6割が「おおむねそう思う」、残りの3割が「あまり思わない」と、ばらつきのある回答をしている。

### 1-6 「小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めること」についての意識

- ①「小学校や中学校の先生たちが、授業をしてくれたり、参観してくれたりするようになったと思う」に対して、小学生は学年が上がるにつれて「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している割合が増加し、小学校6年生では7割程度となっているが、中学生では2割から3割程度にとどまっている。
- ②保護者は「小・中学校の先生がいっしょに授業参観したり、研修をしたりして交流を深めてほしいと思う」に対して7割から8割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③9割以上の小・中学校が小中一貫教育の試行により、小・中学校教職員間の交流が深まってきたとしている。

### 1-7 「中学校ブロックを単位とした地域社会・保護者相互の連携を深めること」についての意識

- ①児童生徒は「小・中学校がいっしょになった地域での行事やPTA・育友会行事がふえたと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している割合が2割から3割程度にとどまっている。
- ②保護者は「中学校ブロックでの地域の集まりやPTA・育友会活動が増えたと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している割合が3割程度にとどまっている。
- ③7割程度の小・中学校が小中一貫教育の試行により、中学校ブロックを単位とした地域社会・保護者相互の連携が深まったとしているが、本市の小中一貫教育のねらいとしてあげている7項目に対しての設問の中では肯定的な回答の割合が一番低くなっている。

## 2 小・中学校間のなめらかな接続を進めるための取組などについて

### 2-1 校種間の乗り入れ授業（指導）について

- ①「担任以外の先生や中学校の先生にも教えてほしいと思う（小学生）」に対して小学校4年生・5年生は7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答しているが、学年が上がるにつれてその割合は低くなり、「わからない」と回答している割合が増加している。
- ②保護者は「小学校でも、担任以外の先生や中学校の先生にも我が子を指導してほしいと思う」に対して6割から7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③7割程度の小・中学校が中学校ブロックでの体制や条件を整えば、他校で授業や部活動などの指導をしてもよいとしている。

### 2-2 不安や戸惑いについて

- ①児童生徒は「小・中学校がいっしょになって行事などをするに心配はない」に対して5割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ②「小中一貫教育を行うことに不安や戸惑いはない」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している保護者は4割程度にとどまっている。
- ③小・中学校は「小中一貫教育を行うことに不安や戸惑いはない」に対して6割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している一方、3割程度は「あまり思わない」「思わない」と回答している。

### 2-3 広報活動について

- ①児童生徒は「近くの小学校や中学校のようすが、おたよりや掲示板などでわかるようになった」に対して4割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ②保護者は「リーフレットやたより、インターネットなどで、宇治市の小中一貫教育の取組状況を知ることができている」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答して割合が4割程度にとどまっている。
- ③9割以上の小・中学校が市教委や中学校ブロックなどが発行するリーフレット（小中一貫教育だより）などは、小中一貫教育の取組全般について保護者や地域住民に広報することに役立っているとしている。

## 2-4 児童生徒の交流活動や合同行事について

- ①小学生から中学校1年生は「小学生と中学生がいっしょに活動することは大切だと思う」に対して6割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答しているが、中学校2年生では4割程度にとどまっている。
- ②保護者は「我が子の成長にとっては、小学生と中学生の交流活動や合同行事を行うことはよいことだと思う」に対して7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している。
- ③9割以上の小・中学校が児童生徒の交流活動や合同行事は教育的に有効であるとしている。

## 2-5 自尊感情の育成について

- ①児童生徒は「上級生や中学生をすごいと感じるようになった（小学生）」「小学生に対して中学生としての自信と自覚がでてきた（中学生）」に対して6割から7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している。
- ②保護者は「我が子は交流活動などを通して、上級生をよき兄、姉と感じたり、よき兄、姉になろうとしたりするようになったと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している割合が4割程度にとどまっている。
- ③小・中学校は6割程度が小中一貫教育により自尊感情が育つと考えているが、3割程度は小中一貫教育だけでは自尊感情が育つとは考えていないとしている。

## 3 小中一貫教育を進める中学校ブロックの体制等について

- ①9割以上の小・中学校は中学校ブロックにつくられている推進組織が小中一貫教育の推進に役立っているとしている。
- ②すべての小・中学校が、小中一貫教育（チーフ）コーディネーターやブロックの教科連携教員・小中連携加配教員、中学校ブロック内の授業や指導の様子を相互に参観すること、合同研修会を行うことが小中一貫教育の推進に役立っているとしている。

## 4 中学校入学に係る心配や不安、悩み、戸惑いなどについて

- ①「中学校入学に向け、心配や不安に思うことはありますか（小学生）」「中学校入学直後、悩んだり、とまどったりしたことはありますか（中学生）」の設問に対する児童生徒の回答を見ると、小学校から中学校への接続の時期において心配や不安、戸惑いがある項目は「中学校での友だち関係」「中学校での先輩との関係」「学習の進め方や定期テスト」の3項目があげられる。
- ②「中学校入学に向け、保護者として心配や不安に思っておられることはありますか（小学生保護者）」「中学校入学直後、悩んだり、戸惑ったりしていたと感じたことはありましたか（中学生保護者）」の設問に対する学年毎の保護者の回答をみたとき、小学校から中学校への接続の時期において、心配や不安、戸惑いがある項目は「中学校での友だち関係」「中学校での先輩との関係」「学習の進め方」の3項目があげられる。
- ③6割程度の小・中学校はいわゆる中1ギャップを感じるがあると回答している。

## 5 小中一貫教育の取組を進めることにより期待する成果について

- ①保護者が期待する成果は学年によって順序に差異はあるものの「学力の充実」「教職員の資質と指導力の向上」「豊かな人間性や社会性の育成」の3項目が上位を占め、いずれにも5割程度の保護者が選んでいる。また、この3項目に加え、「学習習慣の確立」と「社会的な資質や能力・態度の育成」「個に応じた指導や支援の充実」も、3割から4割程度の保護者が期待する成果として選んでいる。
- ②9割近くの小・中学校が「学力の向上」を期待する成果として選んでいる。また、6割から7割程度の学校が「教職員の資質と指導力の向上」「学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくりの推進」「豊かな人間性や社会性の育成」「学習習慣の確立」を選んでいる。